

今日のトピック 最近の指標から見る米国経済(2014年10月) 世界経済の減速が米国経済の下振れリスク

ポイント1 失業率は約6年ぶり6%割れ

雇用者数の増加は20万人超

■9月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比24.8万人の増加となりました。市場予想(ブルームバーグ集計)の同21.5万人を上回り、7月、8月分は合計6.9万人上方修正されました。また失業率は前月の6.1%から5.9%に改善し、2008年7月以来、約6年ぶりに6%を割り込みました。ただし、長期失業者(27週以上)の割合が増加し、時間当たり賃金の上昇率は前月比▲0.04%となり、1年2カ月振りにマイナスとなるなど、雇用の「質」の改善は一服しました。

(万人)【米国の非農業部門雇用者数と失業率】 (%)



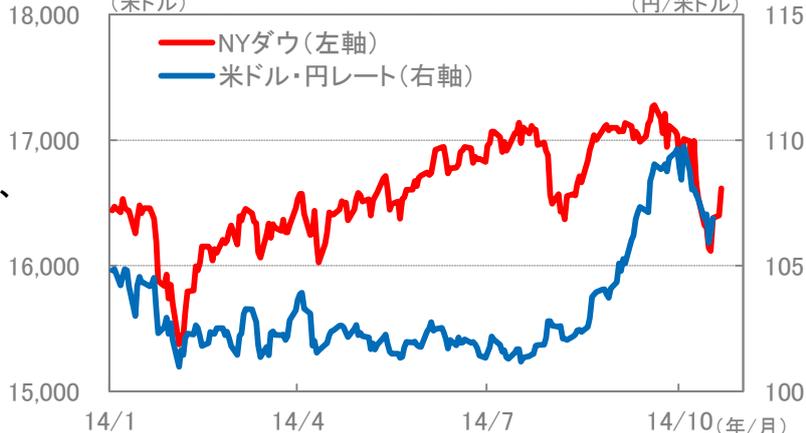
(注)データの期間は2013年9月~2014年9月。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 米国経済に下振れリスク

世界経済見直し下方修正から
株安、米ドル安へ

■10月以降、IMFが世界経済見直しを下方修正し、FOMC議事録では欧州等世界経済の減速懸念が米国経済のリスクと指摘されたことなどから、NYダウは9月中旬の最高値17,279.74米ドルから16,000米ドル前半に下落しました。また米ドル円レートは10月1日の東京時間に一時1米ドル=110円台となりましたが、10月中旬には105円台前半まで米ドル安円高が進行しました。

(米ドル)【日経平均株価とNYダウの推移】 (円/米ドル)



(注)データの期間は2014年1月2日~2014年10月21日。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緩やかな景気拡大からさらに雇用の改善が見込まれ、QEは終了へ

■9月のISM景況感指数は製造業、非製造業ともに前月より低下しましたが、高水準を維持しています。ただし、世界経済の減速が米国経済の減速に影響することが懸念されます。

■FRBが雇用のほかに重視する物価動向を見ると、個人消費支出価格指数は徐々に上昇しているものの、FRBが目標とする2%に達していません。今後は労働需要の拡大に後押しされた賃金上昇が物価上昇につながると見込まれます。

■10月28日、29日に予定されるFOMCでは、9月の雇用統計の結果なども踏まえ、見込み通りQEが終了すると考えられます。世界経済の減速懸念などにより、市場の利上げ予想時期は後ずれしていますが、米国経済の緩やかな拡大は続くと思われ、雇用の「質」の改善や物価上昇が十分となると見られる来年後半の利上げが見込まれます。

ここも チェック!

2014年10月21日【デイリー No.1,973】米国の債券市場の最近の動向(2014年10月)
2014年10月21日【キーワード No.1,437】ページブック(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。